

庁舎等建設及び公共施設マネジメント推進調査特別委員会行政視察報告書

1 視察日程 令和8年8月18日(火)

2 視察先及び項目

東京都立川市 市立図書館分室、学童保育所、公民館を併設する公立小学校について

3 参加者 委員長 吹春 やすたか

副委員長 水 谷 たかこ

中 井 れい子

小 林 正 樹

沖 浦 あつし

村上 ようすけ

藤 川 賢 治

た ゆ 久 貴

遠 藤 百合子

岸 田 正 義

渡 辺 大 三

森 戸 よう子

同 行 郷 古 陸 (公共施設マネジメント推進担当課長)

内 野 敦 史 (庶務課長)

随 行 千 田 菜 月 (議会事務局)

4 視察概要 別紙1のとおり

5 視察収支報告 別紙2のとおり

(別紙1)

視 察 概 要	
【視察日程】 令和8年8月18日	【視察先】 東京都立川市
【視察項目】 市立図書館分室、学童保育所、公民館を併設する公立小学校について	
【視察目的】 立川市では、平成13年度の耐震診断において、文部科学省の目標Is値0.7を下回る結果となり、平成19年度まで庁内検討委員会で協議を重ね、平成21年3月に小学校と学習館、図書館、学童保育所を複合化して建て替えることを決定。平成21年6月に基本構想を検討、平成22年5月にマスタープランが完成した。公共施設の老朽化や更新需要、人口構造の変化等を踏まえ、限られた財源を有効に活用しながら、持続可能な公共施設の整備・運営を進めることが求められている。 そこで、学校施設と図書館、学童保育所、公民館（学習館）等の公共施設を複合化して整備している立川市を視察し、複合化に至った経緯や施設整備の考え方、施設間の機能連携、維持管理・運営方法、財政面での効果、学校施設における安全・セキュリティ対策等について調査する。 また、公共施設マネジメントを推進する組織体制や、学校施設を含めた公共施設の再編・複合化を進める上での課題を把握し、今後の本市における公共施設の更新・複合化及び公共施設マネジメントの推進に資することを目的とする。	
【事業概要】 立川市では、市内の公立小学校に、市立図書館の分室、学童保育所及び公民館（学習館）を併設し、複数の公共施設の機能を一つの建物に集約した複合施設を整備している。 当該施設は平成26年に建設され、学校教育の場に加え、図書館、学童保育、公民館（学習館）等の地域施設としての機能を備え、学校施設を地域の交流・活動の場として活用している。 施設の整備に当たっては、公共施設の複合化による施設の有効活用や地域との連携を図る一方、学校と一般利用施設を併設することによる安全管理、利用者動線、セキュリティ、施設管理等への対応が必要となっている。 また、立川市では公共施設マネジメントを推進するため、技術職員を含む担当部署を設置し、学校施設の所管部署等と連携しながら公共施設の再編・複合化を進めている。視察では、施設の整備経緯、複合化による効果と課題、管理・運営上の工夫、公共施設マネジメントを推進する組織体制等について説明を受け、現地施設を視察した。	
【所感、課題等】 委員1 一番の関心事は複合化による総コストの削減効果であり、質問したところ「金額ベースの算出作業は行っていない」とのことだった。維持管理コストや跡地の売却益等を含めて計算するのは難しく、立川市では敷地面積減（目標は2割減）を一つの指標としたとのこ	



とだが、今後は大まかでも金額見込み計算は必須であると感じた。実態として、安全管理コスト等想定以上のコスト出現もあり、単純な効果は期待できないことがうかがえた。

委員 2

小学校の教室レイアウトにおいて、廊下との区切りを作らない点が、本市の学校の作り方と対照的で印象的だった。一方で、セキュリティや管理面において、単に複数の施設や機能を単に組み合わせるだけでは、複合化による床面積縮減等の効果が期待値どおりにならない経験をしていると伺った。今後、複合化を考えていくには、機能面や運営主体の一元化等、ソフト面でどのような効果が期待されるのか見定めていく必要があると考える。

委員 3

小学校では、オープンスペースを効果的に活用した素晴らしい学習環境が整えられていた。さらに施設の複合化によるメリットだけでなく、児童の安全・安心を考慮し、一般市民とのスペース共有を慎重に検討するなど、運営上の課題やご苦労についても具体的に伺えた。立川市では、技術職を集めた公共施設マネジメント担当課が複合化を推進しており、大変参考になった。

委員 4

公共施設再編推進のために、行政経営課に技術職を複数名配置して学校所管との縦割りをなくし、予算も含めて共同で進めている点は大いに参考にすべきであるが、平成29年策定の公共施設再編計画より期待した面積削減が得られず、PFI方式等の民間活力の導入から従来方式に戻すなど状況が異なっている。本市でも急いで複合化等の検討を進めるのではなく、大規模化の対応や予算面での見通し等を一体で進める体制作りが肝要である。

委員 5

立川市の当該複合化施設は、平成26年に建設されたもので、多摩地域でも先駆けとなる複合化施設である。学校施設は教室には壁がないという珍しい建物となっている。公共施設の縮小が目的ではないとのこと。現状の社会情勢から、学校が外部との関わりについては厳格な対応をせざるを得ない環境がネックであり、学校施設の複合化については慎重に検討する必要があると思った。

委員 6

学校を学びの場だけでなく、図書館や学童、保育所公民館などを備えた地域の交流の場として活用し、開かれた風通しの良い印象を受けた施設を1つにまとめることで、場所や費用を有効に使える一方、維持費や利用状況も考える必要がある。地域に必要な機能を見極め、防災拠点としての役割も組み合わせることで、平時も災害時も地域に役立つ施設になることが理想的である。

委員 7

立川市で図書館・学童保育所・公民館（学習館）を複合化した市内初の市立小学校を視察した。教室と廊下の壁をなくす斬新な設計は好評だが、馴染めない児童もいるとのこと。児童は朝の限られた時間のみ、先生の申請で図書館を利用できるが、一般利用者の学校側利用はセキュリティ上認めず、連携が限られているのは残念だった。建設費は、制約が少ない時代の竣工のため、本市の施設建設に当てはめるには難しいと感じた。

委員 8

立川市では小学校・学習館・図書館・学童保育所の4つの施設の建物を複合化していた。一方、平成29年に公共施設再編計画を作る前の平成24年に工事が行われた経過もあるように、全体のコストを意識したというよりは単独でのメリットを追求したということだった。複合化による面積の縮減とコストカットというメリットを効果的で期待どおりにしていくなかなか難しさがあると感じた。地域の子どもたちや市民が通いたくなる施設だと感じた。

委員 9

複合化した学校施設を拝見したことで、具体的なイメージをつかむことができ、大変有意義であった。学校施設の管理部門を教育委員会から市長部局に移し、公共施設マネジメントの部署として組織変更した点は、本市でも早期に実施すべきと考える。学校図書室は図書館と隣接しているが、セキュリティ面から間仕切りして運用している点は残念に思うが、本市でも考慮を要すると考える。

委員 10

学校と他施設を複合化させた場合のイメージがつかめて有意義だった。複合化の財政効果は質疑してもよく分からず、引き続き解析が必要だと感じた。学校のセキュリティを考慮すると、複合化しても、お互いの行き来にはかなり神経を使う必要があることも改めて痛感した。最後に、複合化となれば、必要床面積がかなり大きくなるため、本市としては、それを加味した財政計画をきちんと示す必要があると痛感した。

委員 11

公共施設の複合化は、施設の有効活用や地域交流の促進につながる一方、必ずしも建設・維持管理コストの削減に直結するものではないことを学んだ。特に学校施設との複合化では、安全管理や利用者動線、セキュリティなど新たな課題も生じる。今後、本市において公共施設の更新・複合化を進める際には、財政面だけでなく、機能面や安全性、将来の維持管理まで含め、長期的な視点から慎重に検討する必要があると感じた。

委員 12

立川市の第一小学校と複数の社会教育施設が複合化されている、市内初の施設。市立小学校に、図書館、学習館、学童保育所が併設され、一か所に集約されて機能している。学

校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちと育むコミュニティスクールを進めていく上で、地域と共にある学校づくりに貢献出来る形ではないだろうか。本市でも参考にしたいところだが、安全面での配慮が必要になると認識している。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 5, 4 1 4 円

〈内 訳 (交通費)〉 委員旅費 @ 4 1 8 円 × 1 2 人 = 5, 0 1 6 円
職員旅費 @ 3 9 8 円 × 1 人 = 3 9 8 円

2 執 行 額 5, 4 1 4 円

〈内 訳 (交通費)〉 委員旅費 @ 4 1 8 円 × 1 2 人 = 5, 0 1 6 円
職員旅費 @ 3 9 8 円 × 1 人 = 3 9 8 円

3 差 引 残 0 円